

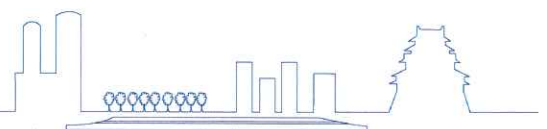
(案)

リニア駅周辺のまちづくりの方向性
[東地区]

中間とりまとめ

2019年 月

名古屋市



★ 経緯 ★

2027年に開業を予定しているリニア中央新幹線により、名古屋・品川間は40分で結ばれ、名古屋駅の拠点性・利便性がますます高まります。短時間での移動が可能となることにより、これまで以上に多くの人々が名古屋を訪れるようになるなど、交流圏域の拡大が図られるとともに、自動運転など様々な技術の進展による社会の変化が起こることも想定されます。

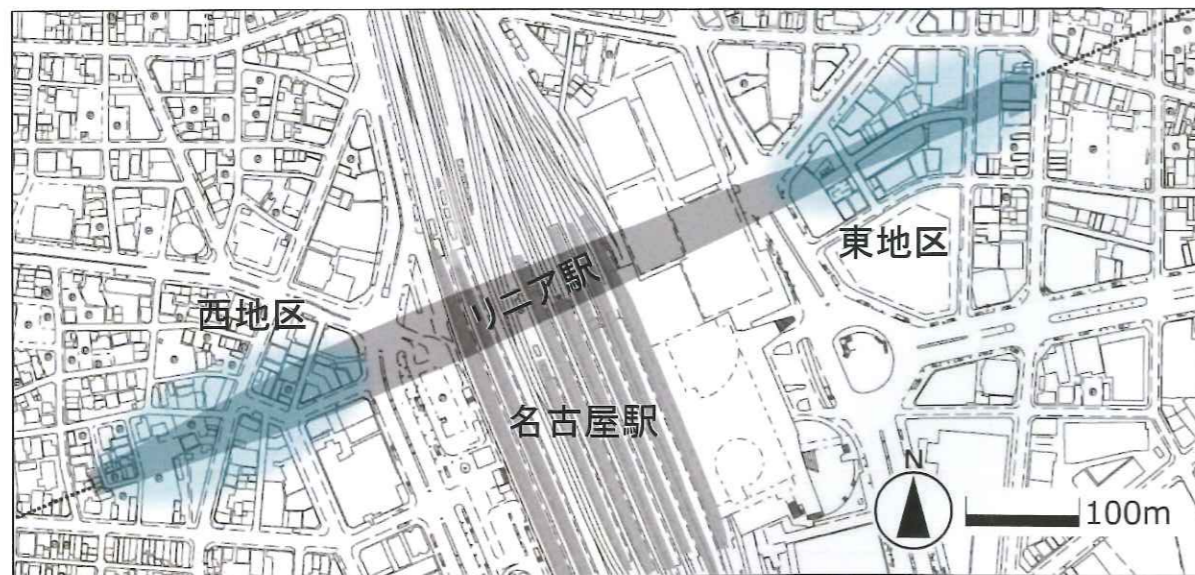
そこで、名古屋市では、リニア開業を見据え、リニア駅上部空間及び周辺街区のまちづくりを進めるため、その考え方を平成29年6月に「まちづくりの方向性(案)」として示しました。

この方向性(案)について、地権者や地域の皆さまを始め、様々な方からご意見を頂戴するとともに、関係機関との協議を進めてまいりました。

その中で、リニア駅の地上部分の空間を広場にする事、またこれに伴い道路の付替えを行うことについて、賛同のご意見を多くいただくとともに、広場のイメージや将来の管理等についても、様々なご意見をいただきました。

そこで、いただいたご意見を踏まえ、将来のまちのイメージを描きながら目標とするまちの姿及びこれを実現するための取り組みの検討状況を取りまとめ、今後、皆さまとともにまちづくりを進めます。

上部空間等の位置



★ 皆さまからいただいた意見の一部 ★

広場	<ul style="list-style-type: none"> ・広場とすることに賛成 ・緑がある、イベントができる、災害時に活用できる空間 ・名駅から地下街でつながるとよい
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の再配置は妥当だと思う ・道路配置をもっと工夫できないか ・広場と親和性のある道路にして欲しい ・交通規制の見直しを検討して欲しい ・廃道によってまちが分断されないか心配
周辺まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・容積率の緩和など支援があるとよい ・広場に向けた再開発の支援が欲しい ・地域と話し合っって計画を決めて欲しい
市有地の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・新明小学校跡地がどうなるか期待

コラム ～ 名古屋のあゆみ ～

- 1610年頃** 徳川家康による名古屋城の築城に伴う碁盤割の城下町の整備
➔ 先進的な都市骨格を形成
- 1886年頃** 東海道線の敷設による名古屋駅の開業
➔ 産業基盤の形成
- 1964年頃** 戦災復興土地区画整理事業による幹線道路ネットワークの形成及び東海道新幹線の開業
➔ 現在の名古屋の都市骨格を形成
- 2027年(予定)** リニア中央新幹線開業(東京～名古屋)
- 2045年(予定)** リニア中央新幹線延伸(東京～大阪)
➔ 東京～大阪間でリニアが開通すれば3大都市圏が約1時間で結ばれ、巨大な都市圏「スーパー・メガリージョン」が誕生し、約7,000万人の交流圏が形成



目標とするまちの姿と将来のまちのイメージ

プロムナード空間となる広場を中心に、
広域から人々が集い・にぎわうまち

人々が集い、憩い、交流する広場が中心にあるまち

地域資源を活かした
回遊性の高い・歩いて楽しいまち

広場や広場周辺の店舗等に、たくさん
の人が集まり、交流し、様々な過
ごし方のできる空間を目指します。

主な取り組み

1 広場整備・道路の再配置

2 広場等へ顔を向けた開発誘導
及び駅周辺の高度利用促進

10年後のつづやき



オフィスワーカー

晴れた日の昼休みは、
木陰のベンチでテイク
アウトのランチを食べ
ながら読書が定番。

ステキな音色に魅かれてき
てみたら、まちかどコン
サートを開催中。
近くのカフェで席を確保し
て、ゆったり音楽鑑賞♪



居住者



まちへの玄関口となる 駅とまちをつなぐ駅前広場

人と人、人とまちとの交流による
にぎわい創出やまちへの回遊の拠
点となる空間を目指します。

主な取り組み

4 駅とまちをつなぐ駅前広場等の整備

2 広場等へ顔を向けた開発誘導
及び駅周辺の高度利用促進

10年後のつづやき



東京からの出張者

初めて名古屋に来たけど、
地下がつながっているため
便利。
案内サインも工夫されてい
て目的地も分かりやすい！

名古屋の“顔”となり、多彩で魅力的な“顔”をもつまち

名古屋駅前の立地を生かし、様々な働き方や住まい方に対応した多様な商業・
業務・居住施設の立地を促進し、さらににぎわいが生まれる空間を目指します。

主な取り組み

2 広場等へ顔を向けた開発誘導
及び駅周辺の高度利用促進

6 市有地を活用した
新たな拠点の形成

1 広場整備・道路の再配置

4 駅とまちをつなぐ駅前広場等の整備

10年後のつづやき

マニアックな品揃えのう
ちのお店だけど、リニア
開通で、遠方からお客さ
んも来てくれるおかげで
大盛況。



雑貨店
店長

経営コストを考えると、思い
切って本社を名古屋に移して
みた。社員は東京から通うは
ずだったのに、住むのにも快
適だからと、こっちに引越す
社員が続出！



会社経営

交流拠点・ビジネス拠点にふさわしい安心・安全なまち

広場整備や周辺の開発に合わせて災害時に活用できる空間
や誰もが安心・安全に歩ける空間を目指します。

主な取り組み

3 街並み・景観のルールづくり

1 広場整備・道路の再配置

6 市有地を活用した
新たな拠点の形成

10年後のつづやき



居住者
(親子)

周辺のお店や
オフィスが清
掃などをやっ
てくれるから
いつも綺麗で
安心。



オフィス
ワーカー

防災訓練に参加。
備蓄倉庫に保存された食料は
おいしくて、万一帰れなく
なっても安心？
一緒に参加した地域の人とも
交流が図れてまちに愛着も。



▲歩いて楽しい空間のイメージ (戸越銀座商店街/品川区) ※写真提供: 品川区
▲広場のイメージ (東京ミッドタウン/港区)
▲広場のイメージ (大手町仲通り/千代田区)
▲安心・安全に歩ける空間のイメージ (丸の内仲通り/千代田区)



観光客

まちづくりの取り組み

1 広場整備・道路の再配置

■取り組みイメージ

(1) 広場整備

- ・リニア駅上部空間は、広場利用を主とした公共的空間として活用
- ・広場と道路は、オープンスペースとしての一体的な活用に向けた設え・ルール等を検討
- ・周辺の商業・業務施設等とともに、イベントなどにより名古屋駅を訪れた人が楽しめるにぎわいのある空間を整備
- ・広場から周辺のまちへと人が回遊するような魅力的なプロムナード空間を整備
- ・大規模地震時に一時退避場所として活用できるオープンスペースを整備
- ・広場や周辺来訪者等の利便性の向上及び都市環境の向上のための施設等を検討

(2) 道路の再配置

- ・道路の廃道や付替え道路の整備による街区の再編を検討



・リニア関連施設はできる限り広場空間と調和するように配置



▲魅力的なプロムナード空間を整備している事例 (東京国際フォーラム/千代田区)



▲にぎわいのある空間を整備している事例 (三菱一号館美術館/千代田区)



▲自動車の通行を抑制し歩行者の回遊性を向上している事例 (コレド室町/中央区)

2 広場等へ顔を向けた開発誘導及び駅周辺の高度利用促進

■取り組みイメージ

(1) 広場等へ顔を向けた開発誘導

- ・人々が集える空間やオープンな空間を広場へ向けて設置するなど、壁面の位置や建物の用途等について配慮した場合、インセンティブを付与する制度活用について地権者の方とともに検討

(2) 駅周辺の高度利用促進

- ・共同化意向のある地権者の方が中心となる勉強会等の開催を支援
- ・土地の高度利用を誘導するための制度の活用を支援



▲土地の高度利用を図っている事例 (コレド日本橋/中央区)

3 街並み・景観のルールづくり

■取り組みイメージ

- ・安心して歩いたり楽しめる空間づくりのため、建物の外観や看板等についてルールづくり (都市景観形成地区や地区計画等) を地域の方とともに検討
- ・広場空間等の公共的空間を始め、地域のマネジメントのあり方について地域の方とともに検討

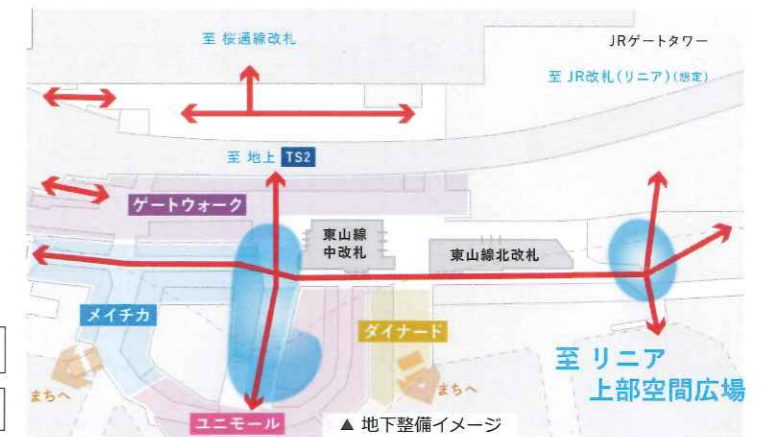


▲地区計画により街並みを統一している事例 (御堂筋/大阪市)

4 駅とまちをつなぐ駅前広場等の整備

■取り組みイメージ

- ・ロータリー交差点を改良等し、まちに人が流れて行きやすい空間の創出を図り、地下広場や新たなまちへの動線と連携し、まちの回遊の起点や情報発信の場として活用
- ・地下広場とリニア駅上部空間の広場をつなぐ地下通路及び出入口を整備



5 魅力ある地域資源の活用

■取り組みイメージ

- ・駅来訪者を円頓寺や四間道などの地域資源へ引き込み、楽しんで滞在してもらうためのプロジェクトを検討



▲地域資源の事例 (円頓寺商店街)



▲地域資源の事例 (四間道)

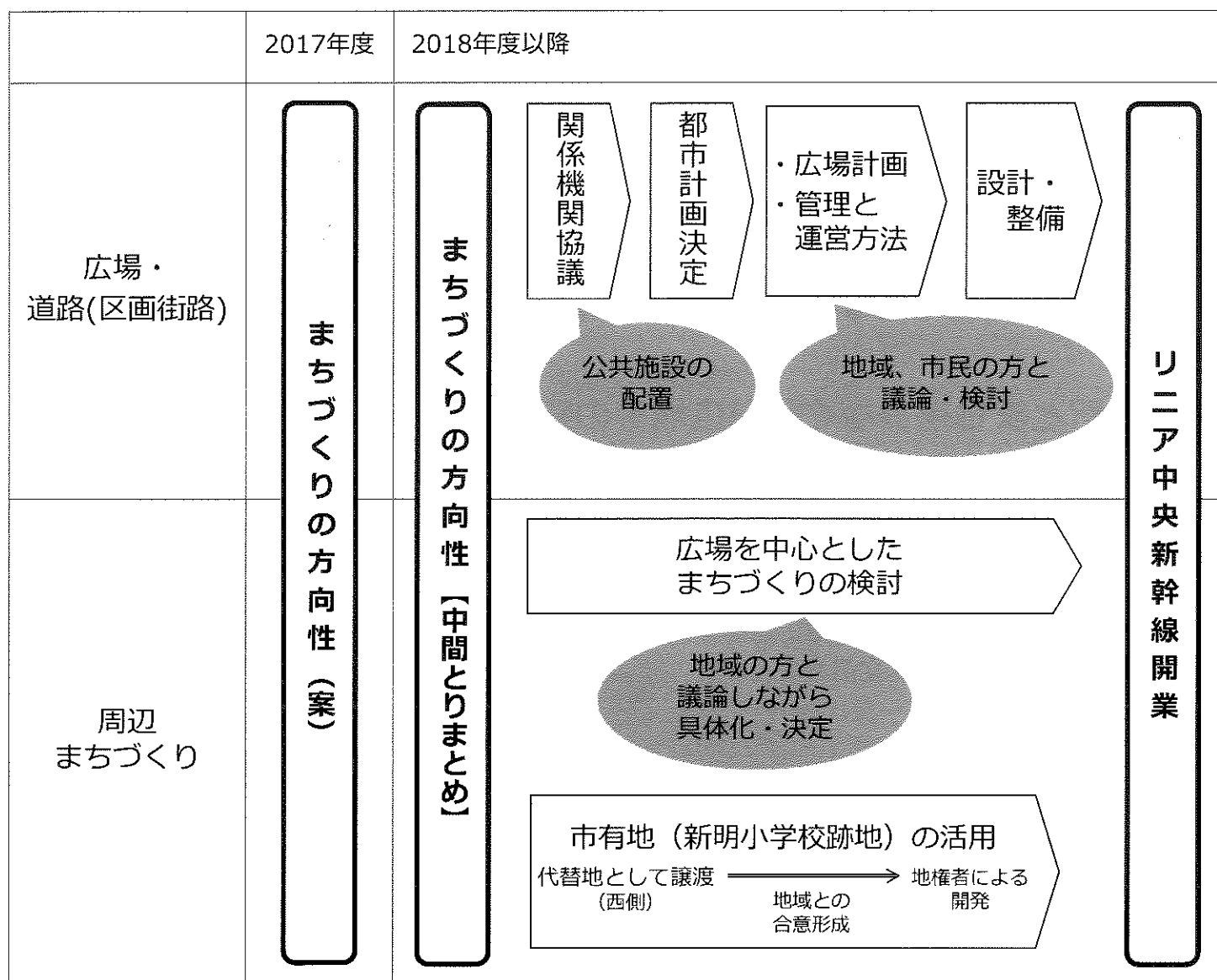
6 市有地を活用した新たな拠点の形成

■取り組みイメージ

- ・新明小学校跡地に民間の力を活用し、地域の交流・防災拠点やビジネス拠点となる空間を検討
- ・学校跡地のうち西側半分はリニア事業の代替地として検討

今後の進め方

★スケジュール★



★まちづくりの体制★

各取り組みを実践していくためには、地域住民・市民・事業者・町内会・まちづくり協議会・名古屋市等のそれぞれが担い手となります。

各々の取組内容や時期に応じて、主体となる担い手の方々が参加し、議論できる場や情報の提供等必要な支援を行います。

また、実践後の持続的なまちのあり方(展開)についても併せて検討・意見交換する場の提供・支援を行っていきます。

名古屋市 住宅都市局 リニア関連都心開発部

リニア関連・名駅周辺開発推進課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話 052-972-3986

電子メール a3981@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp